

## 山の手の原っぱ族

今井 省吾

私は大正十五年三月生れ、第二人妹一人の長男で、この年の十月二十五日に昭和と改元されました。私の子ども時代は昭和七年から十三年くらいまでの小学生の頃です。現在に到るまでの私の生活環境の歴史のなかで、子ども時代はどのような種類の環境であったのか。また、私は子ども時代の生活環境をどのようなイメージとして認知しているのか、

について述べ、さらに、私の生活史全体のなかでの子ども時代の意識についても少し考えてみます。乳幼児期は五歳まで東京下町育ち、本所相生町に住み、はっきりした記憶はほとんどありません。チンドン屋の後について迷子になり、親が大さわぎで捜したら、両国橋の交番に私が保護され遊んでいたことがあったそうです。小学校入学の少し前、自然の

緑が豊かな山の手の目黒（当時は、荏原郡碑衾村）に引越し、以来七十年間、現在も住み続けています。小学校入学の頃は急速に都市化が進み、新しい住宅が建ち、幼児と児童のいる若い家族が多く移り住む町（目黒区）に変わりました、目黒の競馬場は府中に移転し、広大な跡地がしばらく残され、林業試験場（現、林試の森公園）や田畑、雑木林、雑草の茂った空地（原っぱ）など、子どもにとって戸外の遊び場が豊富にある環境でした。

就学期の子どもの人口が急増したため小学校の教室が足りず、私は古くからある碑（いしぶみ）小学校へ入学の予定が急に変わり、新設の鷹番小学校に通うことになりました。そこでは、校舎がまだ建設中で正常な授業が困難なので、応急処置の二部授業（午前組と午後組）でした。こんな状況のまま小学二年を終えたところで、三年生からは、さらに近くに新設の月光原小学校に移り、二部授業は解消しましたが、ここでも、在学中に新校舎が増築されまし

た。しかし、卒業後しばらくすると、田畑の宅地化も限界で、原っぱも消滅し、住宅の新築も止まり、子どもの数も一定になり、小学校の増築も終了しました。

小学生時代の学校教育の体験のなかで印象の強かったものをいくつか述べてみます。昭和八年十二月二十三日、皇太子（現、天皇）が誕生になり私たちは「皇太子様お生れになあつた……」と歌ってお祝をしました。尋常小学校の教科書は全国一律の国定で、私たち大正十五年三月生まれまでは、国語読本は「ハナ、ハト、マメ、マス……」の白黒刷りでしたが、次の学年から四色刷りの「サイタ、



サイタ、サクラガサイタ……」に変わりました。先生による体罰は余りありませんが、授業中のおしゃべりにはチョークが飛んで来たり、教室の外の廊下に立たされたりは、よくありました。冬の暖房は石炭が燃料で、先生は授業中にもときどき石炭をダラムストーブに補給しました。昼食のお弁当を暖めるために、先生は生徒のアルミやアルマイト製の弁当箱をひとつひとつストーブの上の大きな金網のなかのなかに列べ積みあげてくれました。昼食時間が近づくと、お弁当が適当に暖まり、おいしそうなおイが教室中に拡がってお腹がぐうぐう鳴りました。四角い弁当箱の中心の梅干の他は全部まわりが白いごはんだけという「日の丸弁当」の日には、先生は、子どもたちの弁当を見てまわり、日の丸を確かめるのが仕事なのですが、全く形式的なチェックでした。実際は、子どもたちの弁当は、日の丸は表面のみせかけで、見えない下の中味の方は海苔やぶりかけ、玉子焼などがサンドイッチ状にかくされて

いたのです。

クラス編成は定員四十名くらいで、男子組と女子組の編成が一般的で、同学年が三組のときは男子組と女子組に男女組が加わりました。私は男子組でしたが小学校では近隣の地域に住む子どもが集まるので五・六年生になると、同学年の女子組の子の名前と顔もどこの誰ちゃんかといがい知っていました。

けん玉やヨーヨーのような個人技を磨いて競う遊具は学校に持ち込んでも余りきびしく注意されませんでした。しかし、メンコやベーゴマの方は実際にとつたとられたの勝負事なので持込禁止でした。

これまで述べてきたのは小学校の教育環境に関することで私の子ども時代のイメージの序論というべきものです。そして本論の方は友達と戸外の空間で自由に遊んだことです。

学校とは直接関係のない原っぱなどで遊びを中心にした多くの友達との子ども時代の生活は実に楽しい思い出です。グループになって、鬼ごっこ、かく

れんば、チャンバラ、探偵ごっこ、凧あげなど思  
いっきり走りまわり夢中で夕方暗くなるまで遊んで  
しまいました。グループ遊びの仲間、年長、同  
年、年下が一体となったタテ・ヨコ社会で、年長の  
ガキ大将は威張ることもありましたが、グループ全  
体をとりしきり、年下の仲間ひとりひとりの行動に  
目を配り、叱つたり、けんかの伸直りをさせたり、  
面倒見がよくいろいろ教えてくれ、兄貴分のような  
社会的役割を果し、グループで信頼されています。  
た。ガキ大将出身者の先輩のなかには大戦中に学徒  
出陣し、特攻機で自爆された方もおられます。私が  
年下組のときは、年長組との仲間づきあいで鍛えら  
れたり、手かげんされたりを体験するなかで、つき  
あい方の要領を自然に学習したように思います。

紙芝居のおじさんが拍子木をうちながらやってく  
ると、子どもたちはさわいでいた遊びを一時中止し  
て、「黄金バット」など人気の紙芝居を見に集まり、  
一錢玉で買った水飴や駄菓子を食べながらおじさん

の名調子の語りに聞き入りました。人気のマンガは  
少年倶楽部などに連載された、のらくろ、タンクタ  
ンクロー、冒険ダン吉、日の丸旗之助、蛸の八ちゃ  
んなどで来月号が出るのを待ちわびました。これら  
のマンガは復刊され、文庫版で、いま見ることがで  
きて私にはなつかしいですが、少年時代のあの新鮮  
な感激やわくわくした期待感はずい昔のことになり  
ました。

夏はトンボとりの季節です。細長い竹竿の先の方  
にとりもちをつけ、原っぱや野菜畑のなかで、もち  
竿をふりながらギンヤンマを追いかけまわし、つい  
に竿の先にひつつけて捕ったときの快感は何ともい  
えません。つい、「捕りたい」と大声で叫んでしま  
います。トンボを追ってネギ畑のなかを夢中で走り  
まわると、ネギを踏みつけるたびにポンポンと鳴  
り、お百姓さんにどなられました。夕暮近く暗くな  
りかけて密集した蚊をめがけトンボの大群が来襲す  
るときこそ、トンボとりの興奮の最高の場面で

チャクチャに竿をふりまわし、このチャンスを逃すまいと無我夢中ですっかり暗くなるまで捕り続けました。

私の子ども時代の昭和初期は、戦前でもまだ食べものや菓子などが豊かで、山の手の原っぱで自由な空間を動きまわって仲間と遊べたので、決して暗い時代のイメージではなかったと思います。

ところで、文芸評論家の奥野健男の説（一九七二年）によりますと、文学者の思想、気質、美意識、作者の内的イメージ、深層意識は、その「風景」や「風土」と密接にかかわりあっていると考えられました。そして、文学者の自己形成空間である故郷の「風土」や文学作品を支える「原風景」が大いに注目されました。奥野自身の原風景は、昭和初期の東京の山の手（えびす付近）の子どもたちの遊び場になった「原っぱ」であるといえます。奥野は、故郷としての「原っぱ」に育った世代の安岡章太郎、吉行淳之介、遠藤周作、山口瞳、江藤淳などに原風景



を同じくするなつかしさと同志感を感じ、とくに、北杜夫の「幽霊」や「楡家の人びと」の原っぱの描写を読むと、いいがたい共感をおぼえるといっています。私は昭和初期の子ども時代に「原っぱ族」を体験しているので、奥野の説に全く同感で、「原っぱ族」出身の作家と作品に共感と親近感を感じます。私も同じ「原っぱ族」であることに不思議な因縁を感じています。

少年期から青年期、成人期、現在の老年期へと続くそれぞれの時期には、私にとって強い印象の体験がいろいろあります。

青年期は学校教練、勤労働員、兵隊検査など軍国主義と戦争の時代で、敗戦の放送は気象学徒として中央气象台で職員と整列して聞きました。戦後の混乱期は、自分を改めて見直すため、気象技術者から転身して視野を広くすることを目的として社会人学生になり、人文科学（心理学、文化人類学、社会学）を学び、結局、都立大学で心理学研究者の道を選びました。

心理学では主専攻が実験心理学（知覚、とくに錯視）、副専攻が環境心理学（風土、景観、天候の心理）で、生涯の恩師となった和田陽平先生と辻正三先生に出会い、私の研究領域と方法論は両先生の学風に大きな影響を受けました。直伝的な指導を受けたことはまことにラッキーで、心から感謝するところにも誇りに思っています。私の心理学の仕事四十年間の半ばの時期にシドニー大学へ一年間の海外出張のチャンスがあり、異文化の貴重な体験となりました。以来、海外で多くの素晴らしい友人と出会い、

人間味の溢れる国際的交流が続けられてきたことに感謝しています。現在、私は「ひとり暮しの高齢者の自立を支えあう小グループハウスづくり」のボランティア活動をはじめました。ハウスづくり四十五年の英国本部協会と国際的に連動する日本協会の仕事なのですが、NPO法人になったばかりで、日本版ハウスの開設は何年先になりますか。きびしいですが、マイペースで楽しみながら仕事したいです。

私の人生の原体験、「原っぱ族」、「社会人学生」「恩師との出会い」、「異文化の体験と国際交流」「NPO活動」のうち、子ども時代は「原っぱ族」で仲間と一緒に思う存分遊んだ経験によって、子どもなりに対人関係の適応の仕方を学習し、親から独立して社会人となる芽が育てられた時期であったように思います。

（文博・応用心理士）